

医療の現場～市立病院発第5回～（広報やまと平成21年2月15日号掲載）

花粉症について

正月が過ぎ、春を待つこの時期に始まるのが、鼻水、鼻詰まり、それにくしゃみなどの症状が出る「花粉症」です。

花粉症の中でも一般的な「スギ花粉症」は、日本では昭和39（1964）年に論文「栃木県日光地方におけるスギ花粉症」で発表されました。それ以降、花粉症の人は昭和45（1970）年ごろから増え、最近も増加しています。地域によっては人口の30～40％が発症しています。不快な症状はアレルギーの原因（抗原）となるスギの花粉に対する過敏反応です。昭和40（1965）年ごろからの大規模な植林によるスギ花粉の増量も要因の一つですが、それに加えて、環境因子や栄養状態、ストレスなどが関係しているといわれています。

【治療の方法】

現状では、薬で症状を緩和しています。長期の症状の軽減が期待できる方法として、アレルギーの原因物質のエキスを少しずつ注射し、徐々に体に慣れさせる「減感作療法」がありますが、この治療は、主にアレルギー専門病院でしか実施されていません。しかし最近では、化学剤治療、レーザー手術などの「外科的治療」や、花粉が飛ぶ前に薬を飲み始める「飛散前投与」、アレルギーが発症する仕組みに合わせた薬の開発など、さまざまな試みが実施されています。

【治療の第一は】

まず、花粉が体内に入りにくくするためにマスクや衣類に気をつけるほか、屋内に持ち込まないように心がけることが大切です。さらに、花粉飛散前に薬を飲み始めたり自分の症状に合った薬を見付けたりすることも重要です。

つらい時期ですが、症状がある人は早めの受診をお勧めします。

（このコラムは市立病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）